



S市の空港から、S駅までバスで行きました。S駅に着いてから、予約していたホテルを探しました。まだスマホがない時代です。地図を見ながら、はじめて歩く街で、ホテルを探しました。なかなか見つけられなかったので、近くにいた人に「すみません、Sホテルはどこですか」と聞いたところ、その人は「ここですよ」と言って、すぐ目の前の建物を指しました。私はホテルの目の前をずっとうろろうろしていたようです。その人は「受験生？ 頑張ってるね。」と言ってくれました。

さて、なんとか無事にチェック・インをして、ホテルの部屋に荷物を置きました。部屋にはベッドと机とテレビと小さな冷蔵庫がありました。机の上には、インスタントのコーヒーや紅茶、水のボトルが置かれていました。空港からホテルまでずっと緊張していたので、とても喉が渇いていましたが、飲んだらお金を払わなくてはいけないのかなと思って、がまんしました。

部屋で少し休んでから、受験する場所の「下見」に行きました。下見というのは、大切な試験やイベントの前に、それが行われる場所を見に行くことです。その日は試験の前日でした。大きな大学の入学試験は、高校などいろいろな場所を借りて行われます。私が受ける試験はM高校で行われる予定でした。私はS駅からM高校までの行き方や、それにかかる時間を確認しようと思い、S駅へ行きました。S駅からは、いろいろなところへ行くバスが出ていて、1番乗り

場から 30 番乗り場くらいまでありました。M 高校へ行くバスは 11 番乗り場から出るようでした。私は 11 番乗り場へ行って、英語の文法の教科書を読みながら、バスが来るのを待ちました。

しばらく経って、11 番乗り場にバスが近づいてきました。私は、そのバスが本当に M 高校へ行くか、念のためもう一度確認しようと思って、後ろに並んでいた若い人に「すみません、このバス、M 高校へ行きますよね？」と聞きました。その人は私の持っていた教科書をちらっと見てから、「いや、行かないと思います。」と言いました。私は「あれ？」と思って、バスを待つ列から離れました。その若い人は、そのバスに乗って行きました。

私はバス会社の人を見つけて、「すみません、M 高校へ行くバスは、何番乗り場ですか？」と聞きました。バス会社の方は「11 番乗り場ですよ。」と言いました。どうやら、さっきの若い人は、勘違いをしていたようです。真冬の夕方だったので、空はもう暗くなりはじめていて、星も出ていました。私は次のバスを待って下見に行くかどうか迷いました。結局、お腹も空いていましたし、早く眠りたかったので、下見に行かずに、安いレストランで夕食を食べてから、ホテルに戻りました。昔から、受験の前日にカツ丼を食べれば、受験に「勝つ」ことができると言われていたので、もちろん、カツ丼を食べました。

次の日の朝早く、S 駅へ行くと、バス乗り場にはたくさんの受験生がいました。

バス会社の人たちが大きな声で「M高校へ行くバスはこちらで一す!」、「T大学へ行くバスはこちらで一す!」などと叫んでいました。私はM高校行きのバスの乗り場に行って、長い列に並びました。「たくさん人がいるなあ、でもこの中の3人に1人くらいしか合格できないんだよなあ。きびしいなあ。」などと考えながら、周りをキョロキョロ見回していたら、なんと、昨日、11番のバスはM高校に行かないと言っていた人が、同じ列に並んでいました。私と同じ英語の教科書を持って。

私は一瞬、怒りを感じましたが、すぐにその怒りは「あの人にだけは絶対に負けたくない!絶対に合格するぞ!」という強い気持ちに変わりました。試験中もその強い気持ちのおかげで、それまでに経験したことがないくらい集中することができました。そしてその結果、私は希望していた大学に合格することができました。

今では、その人に感謝したい気持ちです。でも結局、その人を大学のキャンパスで見かけることはありませんでした。

(1730 字)

(2021.5 Written by Junko SATO)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.